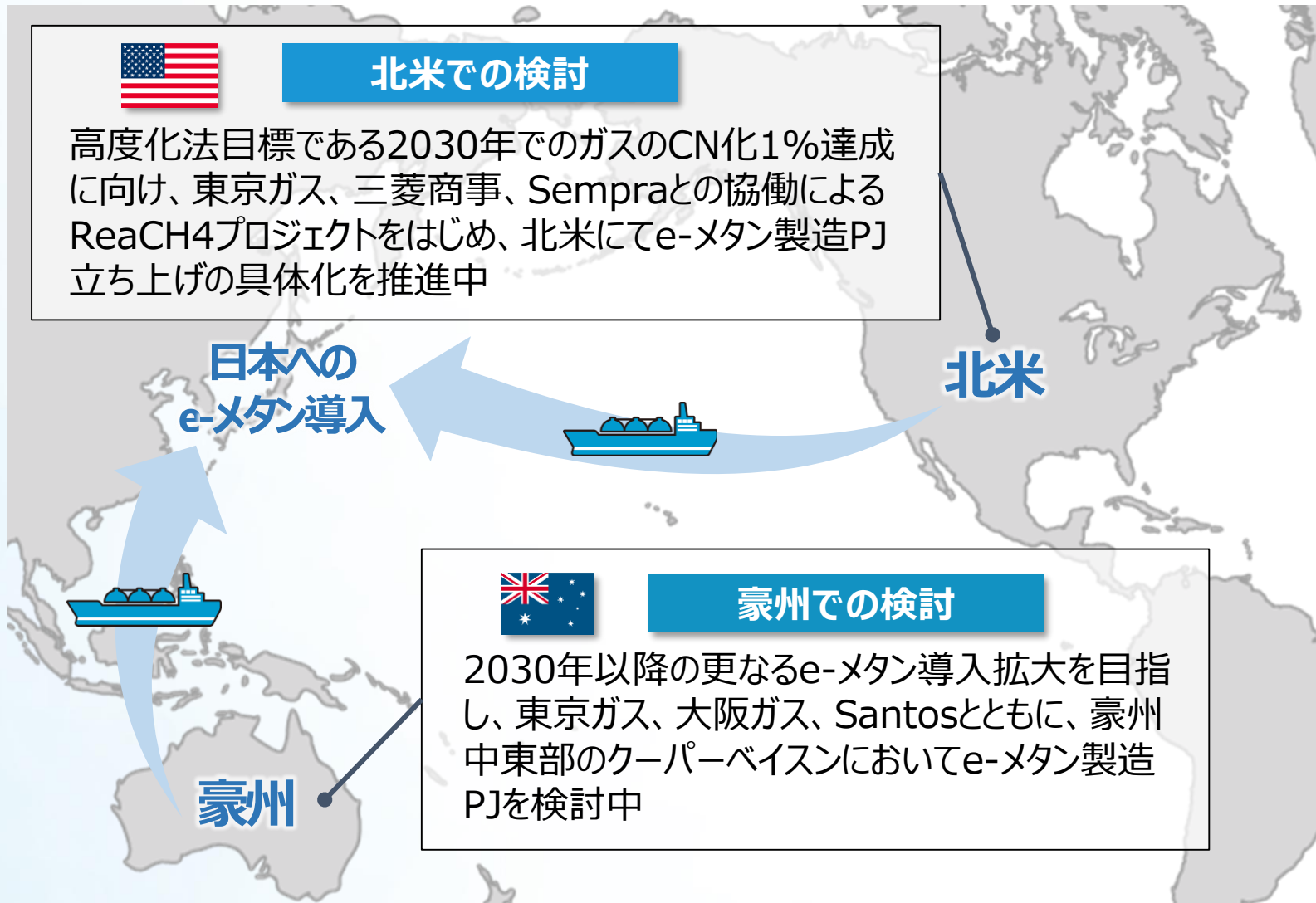


## 資料6－4

# e-メタン等の導入に向けた検討状況 ～海外からの輸入・関連する技術開発～

2025年6月18日  
東邦ガス株式会社

- **2030年のe-メタン導入**に向けた**北米**での検討に加えて、以降の**更なる導入拡大**に向け**豪州**においても案件探索を推進
- また、欧州のエネルギー事業者をはじめとしたe-メタン関連企業との連携を強化し、**世界大での機運を高める活動**にも注力



### 世界大での機運醸成



e-メタンの世界的な普及拡大を目指す国際的アライアンス「e-NG Coalition」を設立し、e-メタンに係る訴求活動等を積極化

### 欧州企業との連携

ベルギーのTES社と、e-メタンのサプライチェーン構築や認知度向上、制度設計に係る包括連携を締結

- バイオメタンも高度化法目標達成の有効な手段の一つとして捉え、まずはポテンシャル調査や需要家のニーズ把握、北米・東南アジアをはじめとした案件探索に着手
- 年内の導入トライアル開始に加え、中期・長期の輸入拡大も見据えて幅広い取り組みを推進中

### 目指す導入時期別の足元の取り組み内容

● 2030 年

● 2050 年

#### 導入トライアル

- LNGと混載する際の区分をはじめとした輸入時における課題整理
- 年内に少量の試験導入を計画

#### 高度化法対応を見据えた調達

- 2030年頃を見据えた調達検討（北米、豪州、東南アジア等）

#### 中長期での更なるガスのCN化に向けた取り組み

- バイオメタンのさらなる輸入拡大を見据え、ブラジルでのサトウキビ廃棄物由来のバイオメタンの生産実証に向け、豊田通商、現地事業者と共同開発契約を締結し、検討を実施中
- その他エリアの案件も含めて、製造PJへの出資参画の可能性も視野に案件探索中



ブラジルのサトウキビ農園

- 環境価値面では主にSHK制度上での取扱い、コスト面では主に託送料金を活用した短期制度の大枠を整理いただいたところ
- 引き続き、国際的な制度での環境価値の確立や、各種制度における認証要件、事業予見性が確保できる形での短期制度の詳細設計等について、官民一体での検討をお願いしたい

### e-メタン・バイオメタン社会実装に向けた政策要望

#### 環境価値面

##### 国際評価

- ◆ IPCCのCCUS方法論確立において、CR燃料利用時の削減価値を計上できるルール整備
- ◆ GHGプロトコル大規模改定に向けたe-メタン・バイオメタンの削減価値確立の後押し

##### 認証要件

- ◆ 各種制度においてe-メタン・バイオメタンとみなすための要件の整理（既存燃料との区分方法、確保すべきトレーサビリティ※等） ※トレーサビリティの強度と、調達価格はトレードオフの関係にある

#### コスト面

##### コスト支援策

- ◆ プロジェクトが抱えるリスクを踏まえた事業予見性が確保できる形での短期制度の承認審査
- ◆ 2030年頃以降の全国大でのガスのCN化に必要な中長期的制度の継続検討

##### 免税等

- ◆ e-メタン・バイオメタンの石炭税・関税の免税、化石燃料賦課金の免除



### 3. 関連する技術開発の進捗

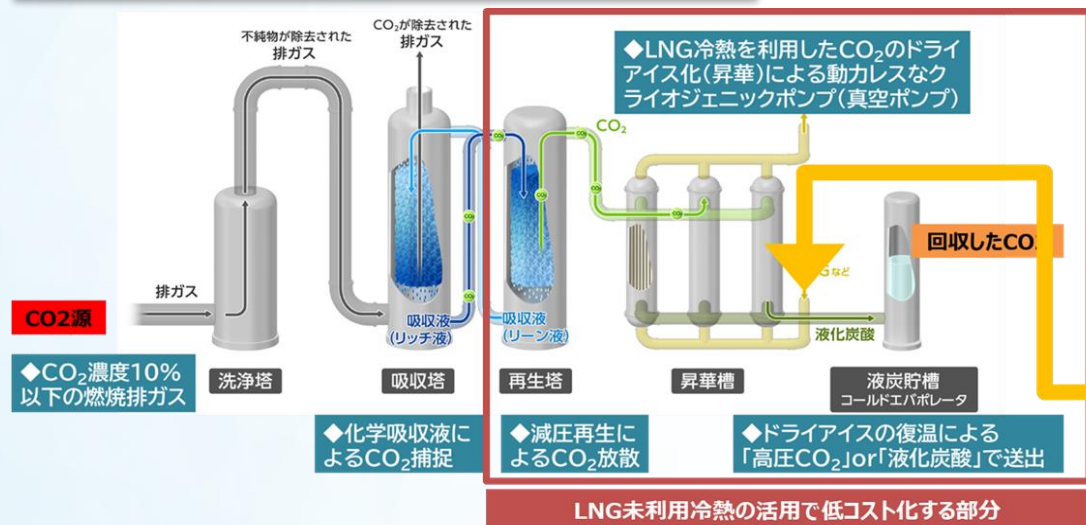
未来の、みんなかへ

- 排ガスからのCO<sub>2</sub>分離回収における**革新的な省エネルギー・低コスト化（目標：3千円/t-CO<sub>2</sub>未満）**を目的に、GI基金を活用し、**LNG未利用冷熱を活用した化学吸収式CO<sub>2</sub>分離回収技術（Cryo-Capture®）**を開発中。
- 昨年、ラボ機での**第1段階のステージゲートを前倒して通過**。今後、ベンチ機※、パイロット機によるスケールアップの課題抽出等を進め、将来的なe-メタン製造コストの低減にも資する技術の確立を目指す。

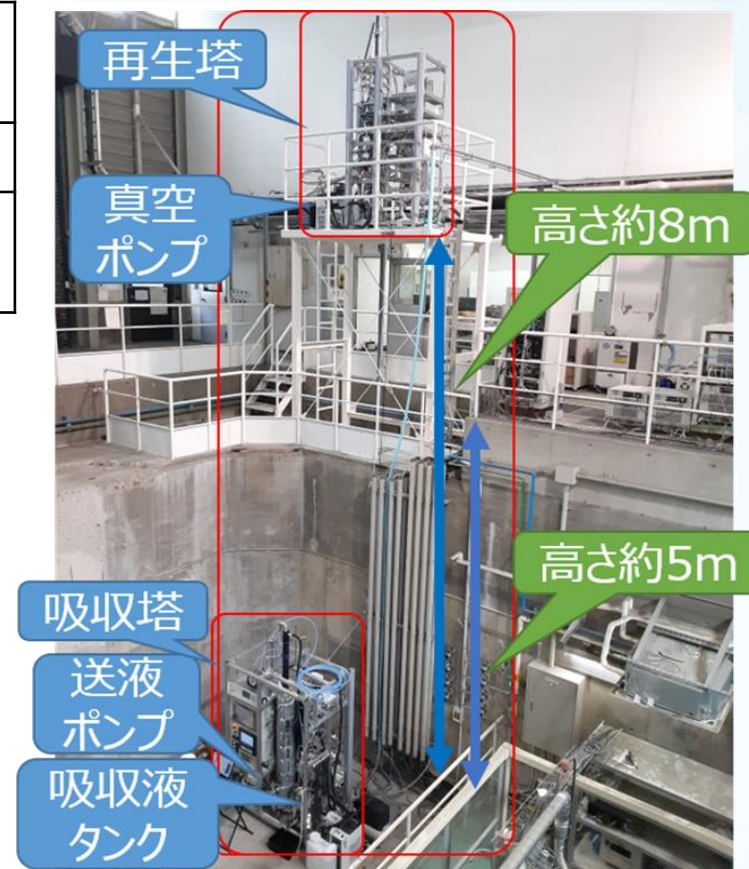
#### 事業概要（グリーンイノベーション基金）

|       |                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------|
| 実施体制  | 東邦ガス株式会社<br>国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 他再委託先                                 |
| 事業期間  | 2022年度～2030年度 9か年                                                      |
| 事業規模等 | 基金事業総額 57.8億円<br>パイロット実証規模 1ton-CO <sub>2</sub> /day級(メタネーションの原料利用を想定) |

#### システムイメージ



#### ラボ機外観



※ベンチ機は、ラボ機の20倍のスケール（50kg-CO<sub>2</sub>/day）

